

令和7年度

## 学校評価表

(中間評価・最終評価)

東広島市立入野小学校

学校教育目標		「夢と志」をもち、未来に向かって果敢に挑戦する児童の育成				経営理念		ミッション：自分も相手も大切にし、自ら考えて行動することができる児童の育成 ビジョン：信頼される学校づくり							
項目	重点	評価計画					自己評価				改善方策		学校関係者評価 (学校運営協議会による評価)		
		中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	目標値	達成値		達成度	評価	結果と課題の分析		改善方策	評価	コメント
							9月	1月							
確かに学力	1	☆知識・技能の習得  ○個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を図る授業改善	○ICT機器を効果的に活用した授業を行う。 ○スキルタイムを継続して実施する。	・NRT、標準学力調査 標準スコア（国語・算数）  ・授業では、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。 ・自分の地域の良さを表現している。 ・児童が表現したくなるような指導の工夫をしている。	児童 50  児童 80%  児童 85.9% 教職員 100%	国語 49.25 算数 48.05  児童 86.3%  児童 96.4%  児童 100%	98.5% 96.1%  108.9%  96.4%  100%	3	○9月は、国語科、算数科共に目標値に達していないかった。これは、個々に応じた指導が充実できていなかったと考える。  ○スキルタイムなどICTの活用を継続つ、AIの分析による、個別の練習問題を活用し、学力の定着を図る。	○全体指導と個別指導を効果的に使い分け、学力が定着しない児童への指導を充実させる。  ○スキルタイムなどICTの活用を継続つ、AIの分析による、個別の練習問題を活用し、学力の定着を図る。	B	概ね適切に評価されている。 課題分析の中で「個々に応じた指導が充実できていらざるとなっている。この点に着目して今年度との違いを分析し、目標値達成を目指してほしい。			
豊かな心	2	自己有用感や社会性を高め、豊かな心を育む。	○東広島スタンダード（特に挨拶）を示し、意識させる。 ○各学級において挨拶する機会を意図的に設定するとともに、挨拶レベル向上のための取組を考えさせる。	・あいさつレベル4ができる。	児童 70% 教職員 80%	児童 46.4%	66%	1	○目標値に対して、児童の達成度が低かった。あいさつについて肯定的評価を行う機会が少く、児童自身にあいさつへの意欲が低下したと考える。	○生徒指導部を中心に機会あるごとにあいさつの評価を行うとともに、児童運営委員会で児童自身に考えさせ、学校全体での取組を企画させる。また、あいさつきを基にマナー等についても指導する。	B	改善方策は、適切である。一方でマンネリ化を心配している。あいさつ以外の面でのアプローチも視野に入れて指導を継続してほしい。			
健やかな体	3	基本的生活習慣の定着や健康や安全について理解し、健やかな体をつくる。	○姿勢を安定させることができることを学習させる。 ○体幹を鍛えるエクササイズを実施する。 ○授業の開始・終了時の「立腰」で意識させる。	・姿勢を安定させることができることを健康のために大切であることを知っている。 ・立腰を意識し、取り組んでいる。	児童 70%  児童 92.7%  児童 51.4%	132%	2	○褒められて嬉しいと感じる児童は目標値を上回った。 ○自分は人の役に立っていると感じる児童は目標値を下回った。役割を果たすことと評価される機会が少なかったと考える。	○「自分は人の役に立っている」と感じる場面が増えるように、係や当番活動、委員会活動等、人の役に立つ活動を充実させる。みんなのために進んで行動できたことを見逃さず、しっかりと褒める。	B	概ね適切に評価されている。 改善方法の「適切に評価していく」とは具体的にどのように評価していくのか明確にしてほしい。				
信頼される学校	4	教職員一人一人の働き方に対する意識の醸成を図り、児童と向き合う時間を確保する。	○保護者や地域に開かれた学校の実現  ○業務改善の推進	○保護者対象アンケートを実施し、その都度、改善方策を検討するとともに、学校の様子を保護者や地域に発信する。  ○児童と向き合うための教職員同士の対話を通して、アイディアを共有し、改善意識や同僚性を高める。 ○早期解決を図るために、報告・連絡・相談を徹底し、スピード感をもって対応する。	・学校は、学校の様子を分かりやすく伝えている。	保護者 90%  保護者 94.4%	104%	3	○目標値を上回った。学校よりや学生により月は1度、ホームページでは行事の日に学校の様子を伝え始めた。また、PTA役員会や地域の集まりでワーワーイン等を使って児童の様子を伝えたことが評価が高かった要因だと考える。	○引き続き児童の様子を学級だよりや学校だより、ホームページで保護者や地域に伝えていく。	A	概ね適切に評価されている。 保護者が好評をしている点は素晴らしい。情報発信を地道に継続してほしい。			
※目標の精選と重点化を行い、重点の項に「1」「2」「3」で表示する。															

■自己評価  
 ●4(目標を上回って達成)≥105%  
 ●105%>3(目標どおりに達成)≥95%  
 ●95%>2(目標をやや下回って達成)≥70%  
 ●70%>1(目標をかなり下回って達成)

■学校関係者評価 (学校運営協議会による評価)  
 A...最も適切である  
 B...適切である  
 C...あまり適切でない  
 D...全く適切でない